

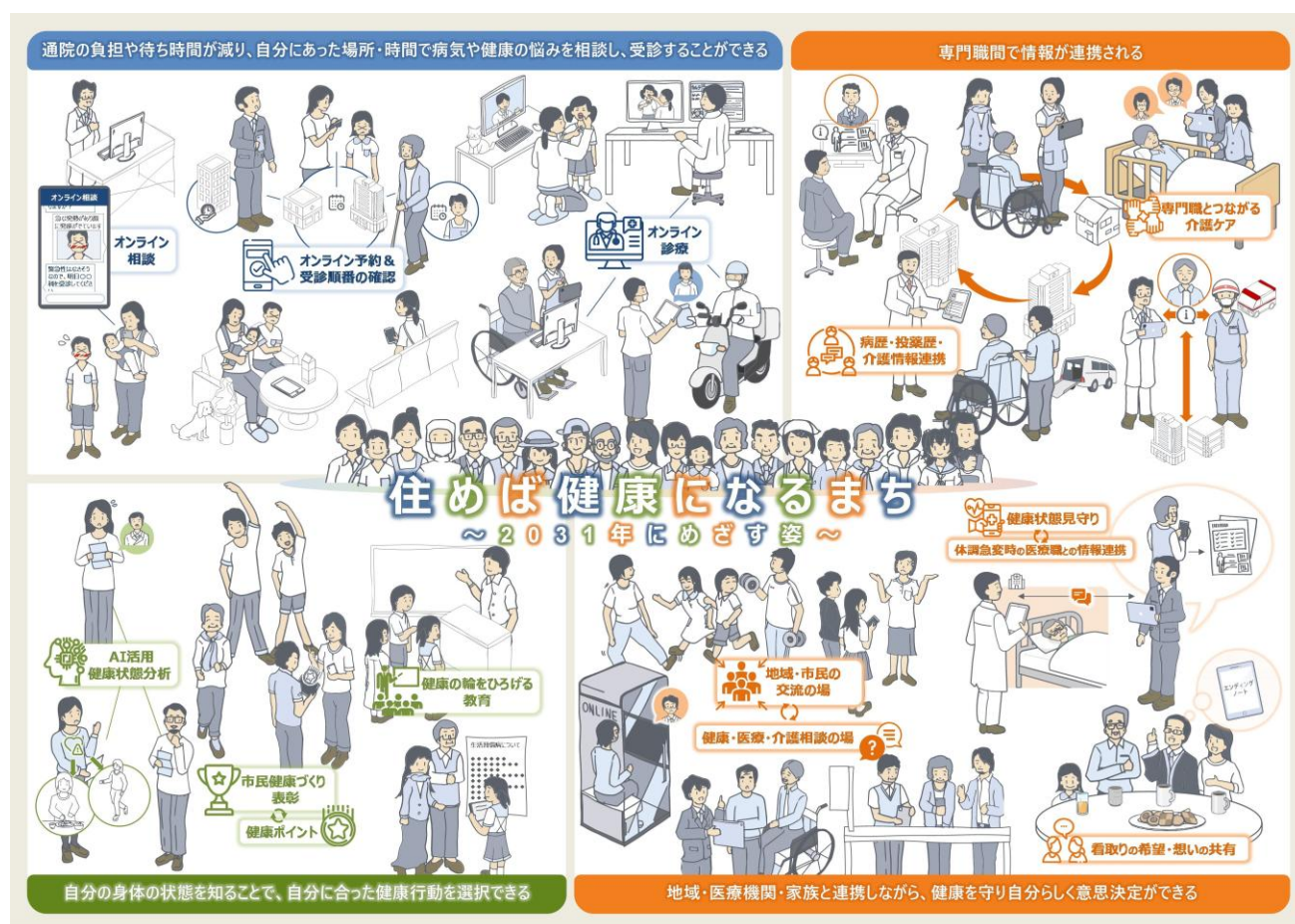
2025 年 6 月 17 日

日立市

株式会社日立製作所

日立市と日立製作所が、「住めば健康になるまち」実現に向けたグランドデザインを描きました

3 つの具体的取り組みを進めながら、健康・医療・介護領域におけるめざす姿をわかりやすく表現



日立市と日立製作所がめざす「住めば健康になるまち」のグランドデザイン

日立市(市長:小川 春樹)と株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO: 徳永俊昭／以下、日立製作所)は、このたび次世代未来都市(スマートシティ)の実現に向けた共創プロジェクト¹(以下、共創プロジェクト)で推進するテーマの一つ「デジタル健康・医療・介護の推進」のめざす姿である「住めば健康になるまち」のグランドデザイン(以下、本グランドデザイン)を描きました。

本グランドデザインは、市政運営の羅針盤である日立市総合計画²最終年度の 2031 年にめざす姿として、健康・医療・介護領域における社会課題(市民、医療・介護従事者の困りごと)をデジタルの力によって解決した先にある「住めば健康になるまち」とはどういうものであるかを、わかりやすくイメージ化したものです。

日立市と日立製作所は、このような未来像を実現するため、「地域医療のデジタル化」「健康データの集約・活用」「地域包括ケアシステムの構築」の 3 つの取り組みを進めています。今回、「健康データの集約・活用」の取り組みの一環として、日立市内の各保険者の健康データの集約・分析実証と、市民健康意識の醸成、健康行動促進に向けた、健康アプリを活用した AI 分析実証を開始します。

日立市と日立製作所は今後も、市民や地域の医療・介護を支えるステークホルダーと対話しながら、これらの取り組みを段階的に計画・実行していきます。そして、その成果や社会潮流・技術発展なども取り込み、本グランドデザインを更新していくことで、市民の健康・医療・介護への興味関心を喚起し、めざす未来社会の実現に向け、ともに挑戦をしていきます。

*1 [日立ニュースリリース:「日立市と日立製作所が、デジタルを活用した"次世代未来都市\(スマートシティ\)の実現にむけた共創プロジェクト"に関する包括連携協定を締結」](#) (2023 年 12 月 21 日)

*2 [日立市総合計画\(2022~2031 年度\)について](#)

デジタル健康・医療・介護における取り組み^{*3}

1. 地域医療のデジタル化

通院の負担や待ち時間を減らし、自分にあった場所・時間で健康や病気の悩みを相談したり、適切な医療サービスを受けることができる未来をめざします。2025 年 4 月から小児対象の夜間・休日オンライン診療および子育て世帯対象の 24 時間 365 日オンライン医療相談サービス^{*4}を開始しました。これにより、地域医療の救急外来逼迫の軽減、子育て世代への医療サービス提供の一助となっています。

2. 健康データの集約・活用

健康データを集約・分析することで、市民全体の健康課題を把握し、疾病リスクの予測、身体の状態にあった健康増進施策の取り組みや疾病予防、再発・重症化予防の検討・実施によって市民健康寿命の維持・延伸をめざします。2025 年度は、日立市内の各保険者の健康データを集約・分析する実証と、市民健康意識の醸成・健康行動促進に向けた、健康アプリを活用した AI 分析実証を開始します。

(1)市民の健康データの集約・分析

日立市民が加入する各保険者(国民健康保険、後期高齢者医療制度、全国健康保険協会茨城支部、日立健康保険組合、茨城県市町村職員共済組合)の健診データやレセプトなどの健康データ^{*5}(対象：40～79 歳の約 66,000 人)を統計化された数値情報として集約し分析します。

(2)健康アプリを活用した AI 分析

日立市民の希望者に健康アプリを活用してもらうとともに、個人同意に基づいて健診データを提供いただき、AI 疾病発症予測結果と適切なアドバイスをフィードバックします。実証成果を踏まえ、次年度以降の効果的なフォローアップの施策を検討します。

3. 地域包括ケアシステムの構築

介護を必要とする方を取り巻く医療・介護に関わるさまざまな関係者と家族が密に情報連携することで、介護を必要とする方の QoL を向上し、自分らしく意思決定ができる地域包括ケアシステムの構築をめざします。2024 年 9 月からは、要介護者等の生活状況を ICT ツールを活用して在宅医療・介護事業者等が情報共有を図ることによって、「多職種情報連携の推進」と「医療・介護多職種の業務効率化」を同時に実現するモデル事業を実施しています。2025 年度は、事業の参加者、参加事業所の拡大を図りながら、病院の地域連携室も加え、入院・転院・退院時における切れ目のない医療・介護サービスの提供に向けた新たな価値検証を実施します。

*3 各取り組みのグランドデザインは別紙をご参照ください

*4 [日立市公式ウェブサイト：「ひたち小児オンライン医療サービス」を開始しました](#)

関連リンク

[次世代未来都市 共創プロジェクトサイト デジタル健康・医療・介護の推進](#)

日立市について

「日立」の名は、「水戸黄門」として親しまれる水戸藩第2代藩主徳川光圀公がこの地を訪れ、海から昇る朝日の美しさに「日の立ち昇るところ 領内一」と称えたという故事に由来すると言われています。

日立市は、西は阿武隈山系に連なり、東は起伏に富んだ太平洋の海岸線を臨む、豊かな自然環境と穏やかな気候に恵まれた「四季折々の美しい自然を満喫できるまち」です。

本市の歴史は、明治時代後期の日立鉱山開発に始まり、その後、同鉱山の電気機械の修理工場が独立し、世界的な企業へと成長を遂げるとともに、国内有数の工業都市として成長してきた「ものづくりのまち」であり、自然と産業が調和した様々な魅力に満ちあふれています。

また、ラジオ体操は、現在の日立市水木町出身で、1936年のベルリン・オリンピック体操日本代表でもあります、遠山喜一郎氏が考案者の一人となっており、本市では、「郷土の宝」として、多くの皆さまに取り組んでいただけるよう普及活動を進めています。

詳しくは、<https://www.city.hitachi.lg.jp> をご覧ください。

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの4セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略SIBビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumadaをコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2024年度(2025年3月期)売上収益は9兆7,833億円、2025年3月末時点で連結子会社は618社、全世界で約28万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.co.jp をご覧ください。

グランドデザイン、デジタル健康・医療・介護における取り組みに関するお問い合わせ先	共創プロジェクト全体に関するお問い合わせ先(日立市)	共創プロジェクト全体に関するお問い合わせ先(日立製作所)
川越、滑川 日立市 保健福祉部	窪、蛭田 日立市 共創プロジェクト推進本部	株式会社日立製作所 ひたち協創プロジェクト推進本部

〒317-8601 茨城県日立市助川町 1-1-1

TEL : 0294-22-3111(代表)

kyoso@city.hitachi.lg.jp

社会イノベーション事業統括本部
へのお問い合わせ：日立

【各取り組みにおけるグランドデザインの詳細】

1. 地域医療のデジタル化

通院の負担や待ち時間が減り、自分にあった場所・時間で病気や健康の悩みを相談し、受診することができる

オンラインでの相談で
すぐに受診の要否がわかる



困ったとき・迷ったときに医師が対処をアドバイス

急な病気やケガで受診すべきか、救急車を呼ぶか迷ったとき、オンラインで医師の判断を仰ぎ、対処を相談できます。救急車の適正利用によって地域の救急外回っ迫を防ぎ、重症患者の受入対応が可能になります。

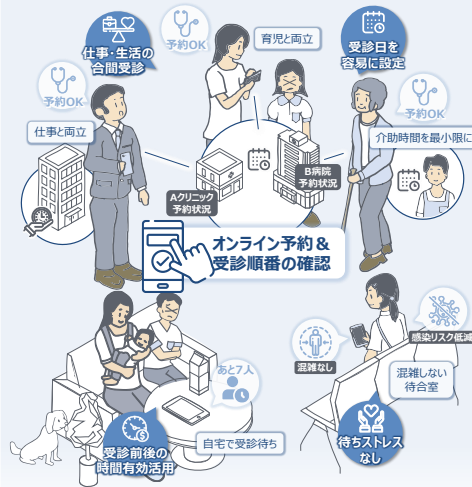
こんなことはありませんか？

- ▲ 急な症状で、どれほど深刻か判断がつかない
- ▲ 救急車を呼んでいいかわからない
- ▲ どの診療科を受診していいかわからない

受診の要否判定 # 受診科の確認

※上記は構想中の内容です。変更になる場合があります。

市内医療機関をオンラインで予約し、受診順番を確認できる



オンラインでの診療予約と受診の順番確認

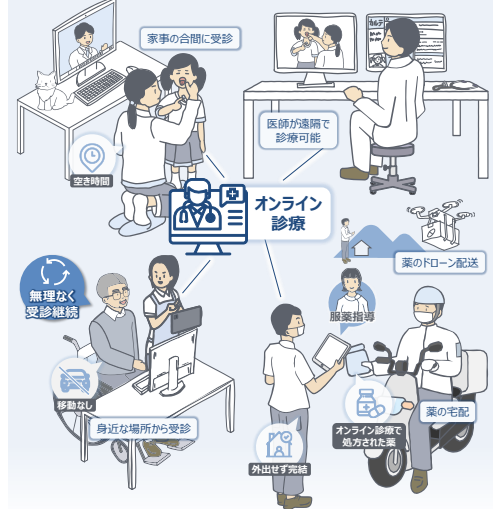
オンラインで診療の予約ができ、受診前後の予定が立てやすくなります。また、診察の順番をリアルタイムで確認できるので、院内での待ち時間が短くなり、混雑が緩和され、感染拡大防止につながります。

こんなことはありませんか？

- ▲ 通院せずに我慢したら症状が悪化
- ▲ 家族の診察にかかる時間がわからず、通院介助のために一日仕事を休みしている
- ▲ 医療機関で長時間待たされる

時間の有効活用 # 待ち時間レス # 受診ハードル低減

医師にオンラインで受診することができる



身近な場所でオンライン診療

オンラインで医師の診察を受けることができ、薬の受け取りも薬剤師への相談も自宅など身近な場所で可能に。子育て中の方や通院が難しい方も、家族や自分の時間を大切にしながら無理なく受診することができます。

こんなことはありませんか？

- ▲ 医療機関までの移動を負担に感じる
- ▲ 通院も準備もひと苦労（泣く子を連れて/介助を頼んで...など）
- ▲ 定期受診が必要だが継続するのが大変

オンライン受診 # 薬配送

2. 健康データの集約・活用

自分の身体の状態を知ること、自分に合った健康行動を選択できる



子どもからひろがる健康の輪

子どもたちは地域や学校などで、健康や身体のこと、どうすれば将来も元気に過ごせるかを学びます。地域や家族で学びを共有し、一緒に健康づくりに取り組み、世代を超えて健康を守る力を育みましょう。

☹️ こんなことはありませんか？

- ▲ 子どものころから健康を守る方法について知りたかった
- ▲ 子どもと一緒にならやってみようと思う
- ▲ 自分だけで行動を変えるのは難しい

健康意識UP # 自己判断能力 # 子どものときから

※上記は構想中の内容です。変更になる場合があります。



あなた専用の健康アドバイス

健診結果などの健康データをもとに、いまの健康状態から将来の健康状態を予測し、あなたにピッタリの健康アドバイスを提供します。あなたの身体の未来を見つめてみませんか？

☹️ こんなことはありませんか？

- ▲ 健康診断の結果を見て少し不安になった
- ▲ 何からやればいいのかわからない
- ▲ いつまでも健康で続けたい

健康データ活用 # 自分専用アドバイス



1度で2度うれしい！健康行動でポイントゲット

健康づくりのための活動をすると、地域で使えるポイントが貯まり、自分の取り組み状況に応じて表彰されます。健康増進のモチベーション維持・向上や地域内での交流にもつながります。

☹️ こんなことはありませんか？

- ▲ ここしばらく運動していない
- ▲ 家族や誰かと一緒にであれば頑張れそう
- ▲ 社会との接点を増やしたい

フレイル予防 # ポイント獲得 # 交流

3. 地域包括ケアシステムの構築

地域・医療機関・家族と連携しながら、健康を守り自分らしく意思決定ができる

地域の身近な場所に 健康・医療・介護拠点 がある



身近なスポットで健康・医療・介護相談

老若男女問わず、みんなが集う場で気軽に健康・医療・介護相談ができます。交流施設など自分にとっての身近な場所が健康を意識する場となります。

- こんなことはありませんか？
- ▲ “ちょっとしたこと”を相談したい
 - ▲ 気になることがあるが、受診した方がいいかわからない
 - ▲ 介護の相談先がわからない

多世代 # 交流増加 # 気軽に医療・介護の相談

※上記は構想中の内容です。変更になる場合があります。

高齢家族を
データから見守り
できる



一人暮らし・離れて暮らす家族の見守り

離れて暮らす高齢の家族。毎日の活動の様子が程よい距離感でわかり、日々の安心に繋がります。体調急変時には、医療職との円滑な情報連携が可能になります。

- こんなことはありませんか？
- ▲ 離れて暮らす家族が心配
 - ▲ 一人暮らし、突然のケガや体調不良を思うと不安

別居でも安心 # 緊急時

意思に沿った看取りを
すすめることができる



最期まで自分らしく “人生の心づもり”

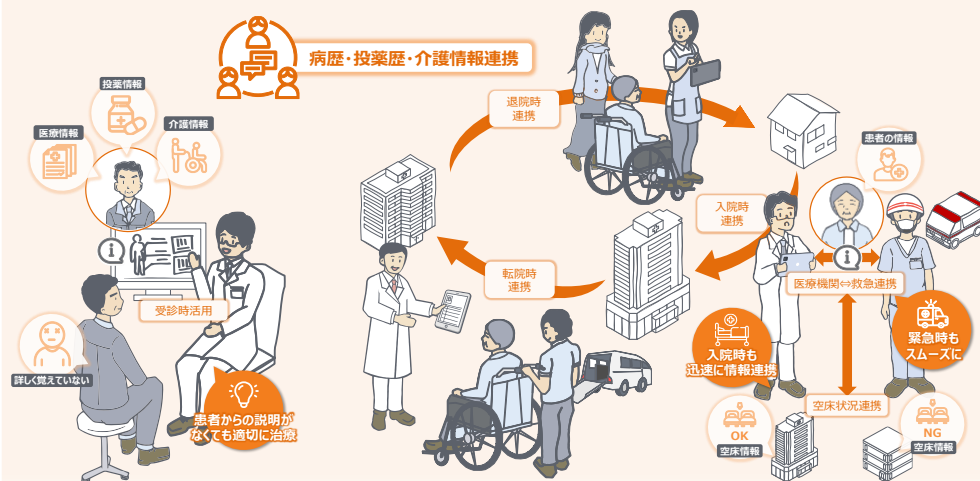
誰もがいつかは迎える最期のとき。最期まで自分らしく生きるための“心づもり”として、自分の希望を家族や友人にあらかじめ共有しておくことで、自分の意思が尊重されます。

- こんなことはありませんか？
- ▲ 想いが変わったがどうすればいいかわからない
 - ▲ エンディングノートの保管場所を誰にも伝えていない

自分らしく # エンディング # 看取り

専門職間で情報が連携される

病歴・投薬歴・介護状態などが共有 されるので、本人説明が容易 に



自分の医療情報が同意に基づいて共有される

医療機関や介護施設で、医師や専門職がこれまでの病歴・投薬歴・介護状態などの情報を共有できるので、患者は説明の手間が省け、医師はより迅速な処置を行うことが可能になります。

- こんなことはありませんか？
- ▲ 問診票に同じことを記入するのが面倒
 - ▲ 自分の病歴や投薬歴を正確に覚えていない
 - ▲ 重複した検査を受けた

初診・転院が楽に # 医療情報の説明不要

※上記は構想中の内容です。変更になる場合があります。

医療・介護情報連携でスムーズな入院・転院・退院をサポート

急な入院・転院・退院でも、医療機関・介護施設などの専門職間で情報が共有されるので、患者と家族は病歴や投薬歴の説明の手間なく、医療機関側もスムーズに手続きを進めることができます。

- こんなことはありませんか？
- ▲ 入院・転院・退院手続きに時間がかかる
 - ▲ 家族の入院時に情報把握にこづいた
 - ▲ 家族の細かな病歴・投薬歴はわからない

家族の情報連携 # 遠方家族の安心 # 入院・転院・退院が楽に

介護者も 専門職に相談 できる



デジタル×多職種情報連携

自宅で安心して介護を受けられるように、地域、医療・介護職が手を取り合い患者を支えます。デジタルを活用した多職種情報連携を通じて自宅から専門職に相談でき、見守る家族も本人も安心して過ごせます。

- こんなことはありませんか？
- ▲ 年齢を重ねても自宅で過ごしたい
 - ▲ 家族の介護を行うのは不安がある

医療・介護職の方も一緒に # 家族と在宅で